

学校評価報告書

令和4年度

令和4年4月1日～令和5年3月31日



幼保連携型認定こども園

蛍ヶ丘保育園

令和4年度 学校関係者評価委員会

幼保連携型認定こども園 蛭ヶ丘保育園

氏 名	役 職	備 考
芝原 雅子	服織西学区会計新聞自治会事務局 日赤奉仕団学区長	地域役員
繁田 秀雄	服織西学区常務委員 新聞自治会 総務副会長	地域役員
河守 真里	幼保連携型認定こども園 蛭ヶ丘保育園 保護者会会長	保護者会会長

学校評価者 会議予定

	3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4月
評価の流れ	評価準備 目標等 設定 ↓	—————→			評価・公表 翌年評価準備	
自己評価	重点目標を定め、施設評価の具体的な目標や計画の策定 ↓	重点的な目標等を考慮した教育・保育活動		必要に応じて 中間評価	自己評価実施 報告書や公表シートの作成 自己評価結果公表 評価結果の報告	
施設関係者 評価	施設評価委員会を設置 重点目標等意見交換 ↓	園公開、意見交換実施 ・行事等の取組・お知らせ			評価委員会に自己評価結果を報告 ↓ 評価の実施・公表 評価結果を設置者報告	
一般の保護者 対象の活動	重点的な目標等の提示			保護者アンケートの 実施・公表	自己評価結果・施設関係者評価の公表 ↓	
設置者による 支援・改善		施設訪問職員からの意見の聴取りの実施		施設支援や 条件整備等の 改善のための 現状把握	評価内容に応じた支援	

令和4年度 学校関係者評価委員会 委員用評価シート

実施日;令和4年11月30日(水)

◎各項目について、参観を通じてお気づきになったことなど、意見交換でのご意見のまとめ

	項 目	評 価
1	保育園教育保育全般について ・保育内容など	・0歳児から就学前の子供たちが大勢いる中で家庭的な保育、担当制をして丁寧に保育している。 ・幼児はかかわりの中での自分を表現できるように行事等で健全に育まれている。
2	職員について ・子どもに愛情と誠意を持って接しているか。 ・子どものよさを引き出そうとしているか。	・子どもへの声かけが丁寧で愛着関係が取れていることを感じる。 ・コミュニケーションが取れていると感じる。
3	子どもについて ・表情豊かに過ごしているか。 ・元気さにあふれているか。	・先生が大好きという笑顔がたくさんみられた。 ・幼児は活発に動き、元気に挨拶もできていた。
4	地域・保護者との連携について ・親しみやすい保育園だと感じられるか。	コロナ禍で地域の行事も中止となり、参加していただけないことが残念でした。 ・いつも子供たちに元気をもたらしているので今後も行事があれば是非参加して欲しい。

◎その他、保育園の教育・保育をご覧になって思われたことなど

- ・園内が自然物で飾られ、四季を感じる工夫がみられる。遊びの環境が充実している。(玩具・遊具)
- ・アプリを使って給食の内容をお知らせするなど、保護者にとってもありがたいことだと思う。
- ・職員の対応のばらつきについては、職員間で話し合い、保護者対応をしっかりとっていくことが大切である。
- ・ホームページを開設中とのこと、楽しみにしています。

学校関係者評価委員会報告

幼保連携型認定こども園 蛭ヶ丘保育園

委員会開催日

令和5年3月7日(火) 13時30分～14時30分

場所・・・ 蛭ヶ丘保育園 遊戯室 2階和室

参加者

服織西学区事務局 芝原雅子

服織西学区常務委員 繁田秀雄

蛭ヶ丘保育園 保護者会会長 河守真里

アドバイザー 七間町保育園 園長 篠原なおみ

蛭ヶ丘保育園 園長 堀江まゆみ 副園長 高橋真澄 主幹保育教諭 大澤文恵

実施方法

学校評価実施内容の報告、職員『自己評価』アンケート集約『保護者アンケート集約』を配布、各委員から論評していただいた。

今年度は評価委員ではないが、七間町保育園園長にも参加していただきアドバイス及び意見を頂いた。

項目

1. 保育園教育保育全般について
2. 職員について
3. 子どもについて
4. 地域・保護者との連携について

評価のまとめ

評価をA・B・Cの3段階に分けて行ったことで、どの項目も、肯定的であるか否定的であるかがよくわかり、課題が明らかになった。

また、「幼保連携型認定こども園」としての評価と課題を分析していくことで、今後の方向性を明らかにしていくことができる。

<評価すべき点>

教育及び保育内容の充実

● 生活

保育室は危険の無いよう工夫している。沢山の園児が一度に園庭に出ると危険なので、時間をずらしたり、遊びのルールを決めたりして、安全を考え工夫した環境も整えている。

又雨の日の移動や遊びの動線が出来るように移動時のルールをつくり試行錯誤しながら確立している。

● 行事

コロナ感染症の中、行事等は保護者への負担をかけずにできることも働いている保護者にとっては良かった。そんな中でもできることを提供し、園児の経験を広げることができた。

- **地域との交流**

近隣に静岡リハビリテーション病院が開院、5歳児が祝い太鼓披露、富沢の老人施設でも敬老の日のお祝いで同様に参加することができた。

- 地域に開かれた園として、運動会、地域のふれあい会等、今後も地域の一員として積極的に交流していきたい。

乳幼児保育について

- 0・1・2歳児は、快適な保育環境の中、保育者にも余裕があり、ゆったりと過ごせている。これからも安全には、充分配慮しケガ・事故の無いよう心がける。
0歳から5歳まで蛸ヶ丘保育園として教育及び保育の継続・つながりの意識を保育教諭が持つことは維持して研修につなげていきたい。
- 遊戯室を使用、また歯磨き指導・体操指導・食育等幼児期に大切な内容を工夫したことが、園の教育保育内容や雰囲気を感じとってもらえることにつながっていると思う。

<今後の課題>

- 1号定員12名、2,3号定員が100名ではあるが、4月当初は0歳児が少なく年度途中入園がある。園児数が安定して入園できるように幅広く受け入れていきたい。
実践してきた事を細かく反省・改善し次に生かして計画をたてて、進めていく。また、行事のあり方の検討を引き続きしていく。
- 早朝から夕方遅くまで残る子どもが激増しケガやトラブルも増えると思われるので早朝延長保育の職員・保育の充実をしていく。
さらに保護者との信頼関係を築きながら、幼児期の教育に対する理解と協力を得ることができるようしていく。

0・1・2歳児の保育について

- 外部講師による研修を定期的に行い今後も資質の向上に努めていく。
- 今年度行ってきたシステムの確認と、保育教諭の仕事の役割分担と一人一人の責任感が必要である。
2歳児は満3歳児として入園してくる園児や途中変更での1号認定の園児が在籍するので、事務的な把握の連携をしていく必要がある。

<まとめ>

蛸ヶ丘地域土地開発の造成と共に、園周辺をとりまく環境が大きく変化している。

新しい活動内容を工夫していきながら、研修して築いてきた『一人一人が主体的に動いて活動する保育』を大切に、さらに質の高い教育・保育が実現できるようにしていく。

ヒヤリハット、事故報告等安全管理等、研修や会議等で職員に周知しているが、今後も気を緩めることなく、安全管理のマニュアルを確認して、より一層安全管理を徹底していく。